



広報柏谷

発行：柏谷区広報委員会

令和2年10月11日、例大祭の夜、柏谷の空に30発の花火が上がりました。
コロナ禍が去り、以前のような日々が早く戻りますように……

瑞穂のくにの ものがたり

日枝神社宮司 泉明寺みずほ

自粛生活も9ヶ月。

娘は入学試験以来一度も大学に登校しておらず、社務所の片隅でオンライン授業を受けたり、事務仕事をしたりの日々。当初、使い勝手の良いこぶんができたつもりでいたが、いつの間にか下剋上が起きて今や鬼軍曹の下でご機嫌を伺いつつ下働きするいたいけな子羊がわたくしである。かくなる上は、大学対面授業再開の際には私が花の女子大生として校門をくぐる覚悟だ。娘よ、後のことは任せた。

さて、夜の集まりがほぼゼロになった今、日没後のお楽しみはズバリ、テレビである。ネットフリックスやHuluに加入して毎晩ドラマや映画を堪能している。その中でも最近一番ハマったのが何を隠そう「アニメ 鬼滅の刃」。主人公が決め技？を出すときに言うセリフ「全集中！水の呼吸、壺の型！水面斬り！」を我が身に置き換えたバージョン「全集中！半紙の呼吸、壺の型！四つ切り！」を呟きながら、机に向かう位の鬼滅ファンである。ところでこのアニメの設定は大正時代。若い子たちは、江戸の世とそう変わらないくらいの古い古い昔話のような感覚で捉えているようだが、大正は私の祖父母が生まれた時代。子どもの頃、寝物語に聞かせてもらった祖母の昔話が、私の中の大正のイメージである。アルバムの写真はセピア色だけど、話の中に広がる世界は、たくさん溢れ、束髪から断髪へ、着物から洋装にチェンジしたオシャレなモボモガが闊歩するハイカラな時代なのだ。そもそも大正年間、日本が連合国の一国とし

て第一次世界大戦に参戦し戦勝国となったため、日本の国益が大きく増え、国内は空前の好景気に沸き、舶来品もたくさんやって来た。そういえば私の一番のお気に入り話が、祖母の父が手土産に持って帰ってくる外国産のお菓子の話だった。洋画が描かれた缶の中に入れられた、色とりどりの紙に優しく包まれた宝石のようなチョコレート。煌めく包み紙は大切に取っておきたいな、とか、舌の上に乗せ、噛まずにゆっくり溶けさせて味わおう、などと想像する小さな私。眠りにつく前から枕にヨダレを垂らす夜更けであった。さて鬼滅の刃ブームは、日本古来の伝統を見直す良いきっかけももたらしたようだ。特に装い。例えば、主人公の少年が着ているのが市松模様の羽織。(因みに少年の妹は麻の葉模様の着物。)着物は久しく七五三や成人式で着るくらいハレの装いとなっていたが、鬼滅のお陰で「和装と伝統柄の魅力」が日本人の心に戻ってきたようだ。袴など、それこそ神職と剣士と腹黒い大物政治家くらいしか身に付けていなかったが、今後は「特別な日のお出かけスタイルは羽織袴でキマリ！」くらい日常化すればいいなと思う。ビバ！リバイバル大正！

……とはいっても、大正時代の主婦の暮らしをもう一度踏襲する事は絶対に無理。ムリムリムリである。何しろ電化製品がまるで揃っていないため、家事洗濯全て手作業なのだ。ご飯を炊くにも火おこしから始めるため、家事労働にかかる時間が長く、その分睡眠時間も趣味の時間も今の女性より格段に非常に少ない。丁寧な暮らしの見本であり、家族のために身を捧げる真摯な姿は尊敬以外の何者でもないが、ものぐさ太郎に落ちぶれたわたくしは、今宵もテレビの前に陣取ってオヤツを食るのが関の山なのである。



大正時代

あの頃の柏谷

～平成5年玉垣竣工記念式典～

平成5年、日枝神社の玉垣改修が竣工した時の式典の様子です。



新しくなった神額

令和2年10月11日(日)、例大祭式典の前に、玉垣竣工報告会が日枝神社境内で行われました。区民からの寄進により建設された新しい玉垣の前に関係者が集い、神事が執り行われ、氏子総代から玉垣竣工の報告がありました。日枝神社の現在の玉垣は、平成5年に皇太子(現在の天皇陛下)と雅子様(御成婚記念事業として建設されました。今回、天皇陛下御即位記念事業として、45名の区民の皆様からの寄進により、長さ約8メートルの玉垣が神社西側の既にある玉垣を延長する形で建設されました。また、今回の玉垣建設に合わせ、傷みの目立っていた鳥居の神額(神社名が書かれた額)も新しくなりました。

玉垣建設竣工報告会